

国土交通大臣
大 畠 章 宏 様

要 望 書

秋田港の日本海側拠点港の選定と
港湾の整備促進について

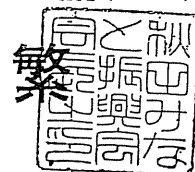
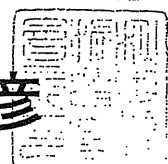
平成23年7月5日

秋田商工会議所 会頭 渡邊 靖彦

秋田港振興会 会長 渡邊 靖彦

秋田みなと振興会 会長 木村 繁

一般社団法人秋田県貿易促進協会
会長 齊藤 健悦



秋田港の日本海側拠点港への選定と 港湾の整備促進について

秋田港の後背地では、自動車、リサイクル、木材産業など対岸諸国が求める産業が育成・集積されつつあり、対岸への輸送回廊ができれば、産業集積が一挙に進展することになります。

このため、他地域に先行してシーアンドレール輸送の事業化推進、ロシア沿海州との環日本海航路の開設、国際コンテナターミナルの機能強化に努めているところであります。

こうした状況に加え、東日本大震災により、秋田港は物流面で太平洋側港湾の代替機能を果たすなど、その重要性が再認識されました。

今後は、物流のリスク分散やリダンダンシー確保の観点からも、秋田港の拠点性はより一層高まるものと考えます。

また、秋田港は緊急物資搬入のための耐震強化岸壁を平成23年までに完成させるなど、地域防災に貢献する港湾としての整備が進展しているところであります。

秋田港の国際定期コンテナ航路は、今年、上海航路、青島・大連航路を加え週8便と過去最多となり、取扱数量も対前年同月比200%強（5月分集計速報）と大幅に増加しており、東北地方及び日本海沿岸地域の国際物流拠点としての役割を果たしております。

一方で、日本海特有の冬季の風浪に対する港内の安全性を確保するため、静穏度を一層向上させるなどの課題も抱えております。

つきましては、東日本大震災で経済的ダメージを被った東北地域を含む周辺地域の経済を立て直し、これまで以上に発展させるため、秋田港の位置づけを十分にご考慮いただき、平成24年度の予算編成にあたっては、次の3項目について特段のご配慮を宜しくお願い申し上げます。

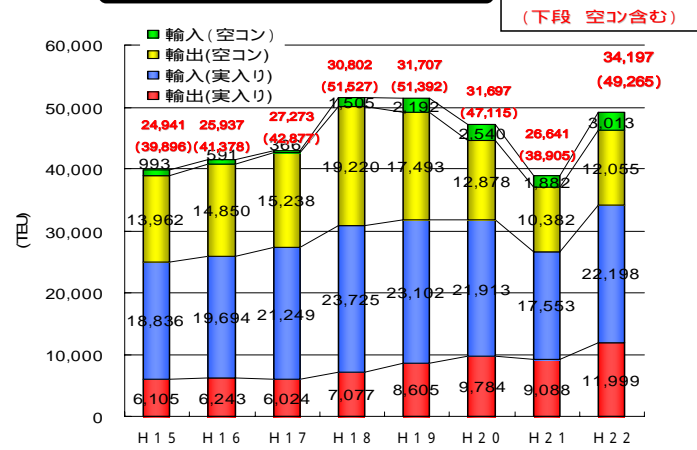
- (1) 環日本海地域の国際物流拠点として「日本海側拠点港」への選定と整備促進
- (2) 港内の静穏度確保に向けた防波堤の延伸
防波堤（第二南）の延伸
- (3) 飯島埠頭の地域防災拠点としての整備促進
防波堤（新北）の延伸
泊地（-11m）の整備

平成24年度 秋田港要望箇所図

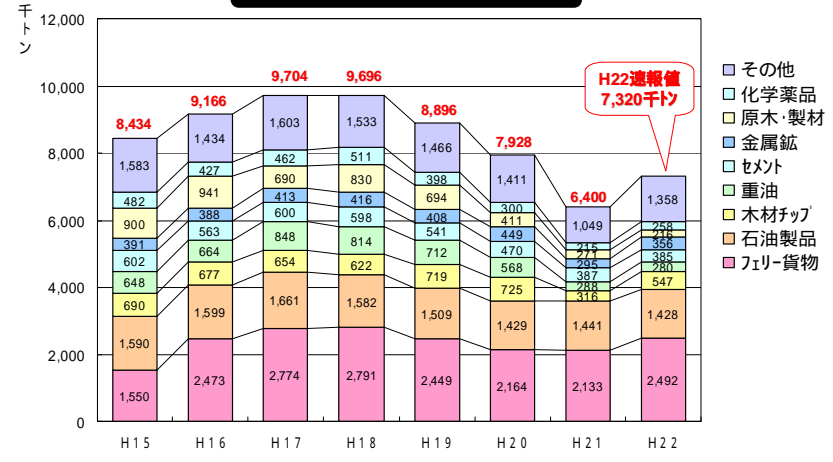
凡例
 直轄施行
 県施行



秋田港の外貿コンテナ貨物の推移



秋田港の主要取扱品目の推移



第二南防波堤の延伸
 L=1,500m